

科目名	国際経済政策論特講	担当者	マエノ 前野 タカアキ 高章	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	近年の世界経済では、グローバルな貿易自由化が進められると同時に、地域統合への活発な動きも見せている。1990年代以降、企業や産業のグローバルな経済活動に伴い部品・コンポーネントなどの中間財の貿易が拡大し、グローバル・バリュー・チェーン（GVCs）が広域に発展してきている。そのような国際分業をより円滑に進めるために経済政策の果たすべき役割が近年特に重要となってきた。本講座は、国際分業構造の変化、企業の海外進出、地域経済の発展などの関連性に着目し、理論と実証の両面から国際経済政策を分析することを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】</p> <p>最新理論、通商政策の論点、実証分析手法を理解し、仮説の提起・検証のプロセスを熟知することを到達目標とする。グローバル化での経済政策（特に、通商政策）が各国経済と地域経済に与える影響を把握するために、国際経済と経済政策の理論的考察の知識を習得し、国際経済政策問題の理論的アプローチの変遷を理解する。レポート提出には前期・後期ごとに期限が設けられており、提出期日は学事歴で定められた日までに提出すること。受講開始後、課題へのアプローチ方法がわからず、初稿期限（提出期限1か月前）までに課題提出することが難しいと考えた場合には、早期に必要な質問をメールあるいはmanaba folioなどを使って連絡すること。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <p>ミクロ経済の基礎理論と国際貿易理論を応用することができる。 生産活動のグローバル化と国際分業構造の変化を説明することができる。 通商政策と地域経済発展の関連性について把握することができる。 国際経済政策と地域経済統合との関わりについて分析することができる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>基礎理論の指導や質疑応答はオンラインでのインタラクティブな指導を行う。</p> <p>【学修方略（LS）】</p> <p>基本教材リーディング、研究文献サーベイとレポート作成を基本的な学修方法とするが、個別指導には対面指導とソーシャルメディアを利用するオンラインで行う。 学修時間は1レポート当たり45時間程度を要す</p>		
スケジュール	<p>レポート提出には前期・後期ごとに期限が設けられており、提出期日は学事歴で定められた日までに提出すること。</p> <p>受講開始後、課題へのアプローチ方法がわからず、初稿期限（提出期限1か月前）までに課題提出することが難しいと考えた場合には、早期に必要な質問をメールあるいはmanaba folioなどを使って連絡すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	課題レポートの内容を正しく理解しているかどうか、教材や参考図書を理解し、自分の意見でまとめられているかどうかを基準とする。
	観察記録	20%	① レポートの事前準備や最終提出までに複数回のレポート交換ができていないかなどといったレポート作成のプロセスを基準とする。
履修者への要望	基本教材を理解したうえで、その他の関連文献などから国際経済政策に関する知識を修得することを心がけてください。また、レポート作成に関しては添削や質疑応答に関する十分な時間を確保するようにしてください。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 若杉隆平 教材名： 『国際経済学(第3版)』(岩波書店, 2009年) ISBN: 9784000266994 2,900円+税
	この教材は、まず国際経済に関するデータの把握から入り、国際経済学の基礎理論を概説し、そのうえで不完全競争下での新貿易理論を網羅して、完全競争下の貿易政策や不完全競争下の貿易政策を解説している。さらに、企業の異質性を国際貿易理論に取り込んだ「新々貿易理論」を紹介し、それをベースに海外直接投資やアウトソーシングなどといった国際貿易を分析する新たな視点を取りあげている。この教材は、理論的アプローチを踏まえて望ましい国際経済政策の在り方を考察するための基本教材として位置づけられる。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・木村福成『国際経済学入門』(日本評論社, 2000年) ISBN: 978-4535551282 3,200円+税 ・富浦英一『アウトソーシングの国際経済学』(日本評論社, 2014年) ISBN: 978-4535556911 3,200円+税 ・清田耕三・神事直人『実証から学ぶ国際経済』(有斐閣, 2017年) ISBN: 978-4641165175 2,800円+税
履修上のポイント	教材および参考図書を熟読し、国際貿易の基本理論の理解を心がける。具体的には、伝統的貿易理論のリカード・モデル、新古典派のヘクシャー＝オリーン・モデル、そして、新貿易理論や新々貿易理論までの国際貿易理論の流れとその特徴など、国際貿易理論の基本的考え方について把握するようにすること。
レポート課題 1	貿易理論の展開を考慮に入れ、現在の国際貿易はどのようなパターンで行われているのか、また、貿易を行う国が国際分業を通じてどのようなメリットを得たのかについて論じなさい。 留意点: 上記の履修ポイントを押さえて、国際貿易の基礎的な理論の展開を論理的にまとめるようにすること。基本教材だけでは理解が不十分な場合は、参考図書や別の資料を参照すること。
レポート課題 2	自由貿易の推進は一国の経済成長にどのようなインパクトを与えるかを論じなさい。 留意点: 通商政策の理論、保護貿易の論拠を踏まえて、主体的な意見ではなく、具体例をあげながら論理的に結果を導くようにまとめること。また、具体例の出所なども記載すること。基本教材だけでは理解が不十分な場合は、参考図書や別の資料を参照すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 木村福成編著 教材名： 『これからの東アジア－保護主義の台頭とメガFTAs－』(文眞堂, 2020年) ISBN: 9784830950988 2,500円+税
	この教材は、近年の世界経済における保護主義と自由貿易の動きから東アジア諸国の経済発展と主要な論点について考察している。東アジアの経済的な連結性の強化は今後の経済発展には欠かせないものであり、グローバリゼーションを効果的に活用することが求められている点について、国際貿易論、国際通商政策論、国際政治学の視点よりまとめられている。この教材は、国際経済政策の現状や課題、将来的な在り方について考察するための基本教材として位置づけられる。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・馬田啓一・木村福成編著『通商戦略の論点－世界貿易の潮流を読む－』(文眞堂, 2014年) ISBN: 9784830948220 2,600円+税 ・馬田啓一, 木村福成編著『国際経済の論点』(文眞堂, 2012年) ISBN: 9784830947711 2,800円+税 ・渡邊頼純『GATT・WTO体制と日本－国際貿易の政治的構造』(北樹出版, 2012年) ISBN: 978-4779303371 2,500円+税 ・長谷川聰哲編『アジア太平洋地域のメガ市場統合』(中央大学出版部, 2017年) ISBN: 978-4805722633 2,600円+税
履修上のポイント	基本教材1で学修する理論的考察を踏まえ、教材および参考図書を熟読し、日本の通商政策への取り組みと、通商政策における近年の課題や将来的な方向性について理解することを心がけること。
レポート課題 1	貿易自由化を促進させた方がいいとされる理由とそうではないとする理由をそれぞれまとめ、自由貿易の在り方について自分の立場と意見を論じなさい。 留意点: 自由貿易の利益と不利益について理論的根拠を整理すること。基本教材だけでは理解が不十分な場合は、参考図書や別の資料を参照し、出所もふまえてまとめること。
レポート課題 2	東アジアの地域経済協力についてその特徴をまとめ、国際経済活動をより円滑にするためには何が必要であるかについて論じなさい。 留意点: 理論的または政策的な視点からのアプローチから通商政策における論点をまとめ、日本や東アジアはどのような経済統合戦略を進めるべきかを考える。基本教材だけでは理解が不十分な場合は、参考図書や別の資料を参照し、出所もふまえてまとめること。

基本教材 1

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし，教材および参考図書に基づく学修を行う
第 2 回	教材および参考図書に基づく学修①（国際経済と統計データ）
第 3 回	教材および参考図書に基づく学修②（国際貿易の基礎）
第 4 回	教材および参考図書に基づく学修③（比較優位と国際貿易，生産要素の変化と国際貿易）
第 5 回	教材および参考図書に基づく学修④（生産技術と貿易均衡，特殊的要素と国際貿易）
第 6 回	教材および参考図書に基づく学修⑤（貿易政策の理論，不完全競争下における貿易政策）
第 7 回	教材および参考図書に基づく学修⑥（規模経済性と産業内貿易）
第 8 回	教材および参考図書に基づく学修⑦（戦略的貿易政策と通商摩擦）
第 9 回	教材および参考図書に基づく学修⑧（直接投資と多国籍企業，技術移転と国際貿易）
第 10 回	教材および参考図書に基づく学修⑨（国際貿易と企業）
第 11 回	教材および参考図書に基づく学修⑩（国際貿易ルール）
第 12 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容を整理し，初稿を提出する。
第 13 回	レポート課題 1 に関する指摘事項について考察および検討を行う。
第 14 回	レポート課題 2 に関する指摘事項について考察および検討を行う。
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを整理し，最終レポートを提出する。

基本教材 2

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし，教材および参考図書に基づく学修を行う
第 2 回	教材 1 で国際経済理論の再確認をし，戦後から現在に至る世界の地域経済協力の変遷について整理する。
第 3 回	教材および参考図書に基づく学修①（アジア太平洋の地域経済協力の現状：経済連携の潮流と日本の通商戦略，TPP と RCEP についてそれぞれ考察する）
第 4 回	教材および参考図書に基づく学修②（国際貿易の利益：グローバル化の推進と保護主義の台頭についてその根拠となる理論を考察する）
第 5 回	教材および参考図書に基づく学修③（国際通商秩序の危機：WTO と FTA/EPA の役割について考察する）
第 6 回	教材および参考図書に基づく学修④（経済統合と安全保障：自由貿易と安全保障の関係性について考察する）
第 7 回	教材および参考図書に基づく学修⑤（地域経済統合：東アジアにおける地域経済統合の深化と経済的影響について考察する）
第 8 回	教材および参考図書に基づく学修⑥（国際制度と企業行動：通商政策が企業の行動にもたらす影響について考察する）
第 9 回	教材および参考図書に基づく学修⑦（ASEAN の経済的連結：東アジア経済における ASEAN 地域の役割と課題について考察する）
第 10 回	教材および参考図書に基づく学修⑧（経済統合戦略：経済統合のあるべき姿をふまえて地域間の経済協定の取り組みと課題について考察する）
第 11 回	教材および参考図書に基づく学修⑨（COVID-19 の国際的影響：COVID-19 の東アジアにおける国際分業への影響について考察する）
第 12 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容を整理し，初稿を提出する。
第 13 回	レポート課題 1 に関する指摘事項について考察および検討を行う。
第 14 回	レポート課題 2 に関する指摘事項について考察および検討を行う。
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを整理し，最終レポートを提出する。